



岡村病院
院内報

歩 (あゆみ)

第 43 号

発行 岡村病院
編集 歩(あゆみ)
編集委員会
平成16年12月7日

岡村病院 基本理念

私たちは、患者さん本位を第一に考え
高度な専門医療技術をもって
地域会社に貢献することを目指します。



「ゲッキツ」(ミカン科)

診療放射線技師 黒川 禄代 写
(H 16年 10月 院内旅行 バンコク)

今月のことば

和 顔 愛 語

「和顔愛語」は「無量寿経」という佛教の経典にある言葉ですが、一般にもよく使われ心ひかれる言葉です。一日の仕事に疲れて帰った時、家の者が暖かい笑顔で迎えてくれ、優しいいたわりの言葉をかけてくれたらどんなにか疲れも休まる事でしょう。もし自分がいつもにこやかで、言葉も優しくしたら周囲の人もどんなにか心が安らぐでしょう。職場でも皆が和やかな顔でやさしくものを言ったら、きっと楽しい雰囲気を作り出すに違いありません。仕事もスムーズに運ぶと思います。それに病院へ来られる人はみんな何か病気を持っておられる人です。体に痛みを覚え、心に悩みや不安を抱きながら、仕事を休み、時間を割いて来られるのです。入院しておられる人達の痛みや悩みは更に大きいと思います。その人達に接する病院の職員の暖かい笑顔と優しいいたわりの言葉はどんなにか病気の人の慰めとなり、励ましとなることでしょう。

心理学にジェームズ・ランゲ説というのがあります。アメリカの有名な心理学者ウィリアム・ジェームズとコペンハーゲン大学(デンマーク)の医学教授カール・ランゲが殆ど同じ時に発表したもので、二人の名前をとってジェームズ・ランゲ説と言っていますが、それによると、人は嬉しいから笑うのではなくて、笑うと嬉しくなり、腹が立つからドナるのではなくて、ドナると腹が立つ、というのです。

そして、実際にやってみて気のつくことですが、にこやかな笑顔で話すすと声の響きもやわらかになり、言葉もやさしくなります。

「和顔愛語」をいつも心がけましょう。

「医師卒後研修のパラダイムシフト」

院長 岡村 高雄
(心臓血管外科科長)



医療も近年大きな変化を来しつつあります。この中で我々が考えなくてはならない点は「考え方の枠組を変える」これが「パラダイム・シフト」と言われている事です。解りやすく言うと「パラダイム・シフト」とは従来正しかった事が、環境の変化や新しい公式・ルール等によって正しくなくなり、その結果考える手順や仮説を全く新しく組み立て直さなければならなくなることを言います。

「医療のパラダイムシフト」は既に起きつつあると考えています。パラダイムシフトは患者様満足度ランキング、患者さんを患者様と呼ぶ事の様な表面的な事象により発生する問題ではなく、本質的な事を大切にすることにより、新しいパラダイムシフトは起こると考えています。

皆様方は本年度より医師の卒後研修の教育システムが変更になった事をご承知の方もおいでですが、殆どその詳細に関しては詳しく報道をされていないのではないかと思います。今までの医師の卒後研修のシステムは卒業後に医科大学の医局に入局し、各臓器別病棟を順番に回って勉強をして行くシステムになっていました。確かに以前に比べて詳細な研修が受けられる点で進歩している点もありますが、患者さんを臓器化している。つまり、糖尿病の病棟にいる患者さんは最初から糖尿病の患者さんとして見ているために、実際の医師としての最初の診断能力を上げる事は出来ない事態に陥ってしまいました。アメリカの臨床では、内科病棟の基本は色々な病気を有する患者さんが入院をしている病棟で患者さんを拝見し、勉強をする、外来も専門外来は非常に少なく、スペシャリストは少数であります。卒後早期の研修の場が非常に重要であります。日本ではプライマリーケアの重要性が軽視されており、大学病院ではそのような場が用意されていない事が大きな問題となって来ました。軽症から重症までの幅広い急性期疾患を、出来るだけ多く診る場を用意する事が大切だと考えられ様になってきました。つまり、日本の大学病院の研修では、病名が既に判っている患者さんを診ることより成り立っているが、判らない患者さんを見て、幅広い疾患に対応する場を作る

ことが必要となってきています。

2002年の厚生省の研修医診療の質測定研究に於いても、大学病院の研修医が全ての面で市中病院の医師に劣っていたとの報告がなされております。日本の医大生、研修医に欠けている点は①患者さんとのコミュニケーションが出来ない②身体診察が出来ない③急性疾患に対応できない。例えば心筋梗塞の患者さんは大学病院では市中病院に比べて圧倒的に患者さんの数が少ない事や、急性疾患を診ていない理由による④検査、画像診断に頼っている為に検査の結果が出る前に診断が出来ない(臨床医としての勘が歪んでいる)等の点であります。以上の点を改善すべく、本年度より大学病院以外で新しく卒業をした医師が研修する事が可能となってきました。本年度は卒業した医師の約59%が大学病院で研修を受け、41%が大学以外の研修指定病院で研修を受けています。来年度は更に大学病院での研修希望者が減少をして53%が大学での研修を希望し、47%が研修指定病院での研修を行うこととなりました。多分、次第に大学病院での研修医は減少し、研修指定の一般病院での研修医が増大すると思われれます。この結果は大学病院も医師確保に苦勞をする時代が来ると予想され、一般病院と競争をして、医師の教育に力を入れなくてはならなくなり、医師の卒業後の研修の質が向上し、患者様へ今まで以上に質の良い医師の供給がなされるようになると期待されます。最近放映された「白い巨塔」に関心を持たれた方も多いと思います。小説の書かれた時代より歳月が経過しましたので、一部は現在の医療を反映していませんが、まだ大学での人事等では現実に行われている事柄もありました。つまり、卒業後の医師がほとんど大学病院に就職していた為に、大学病院のみが医師の人事を握っている組織であり、人事を掌握して地域の病院に人材を送り、地域の医療システムを統括して来た経過があります。しかし、今回の臨床研修制度の改革により大学に就職しない医師も出現をしてくると思いますので、人事を含めた大学病院の構造が崩壊する可能性があります。今後は医師の人材の流動性が変化をして、増大をし、地域の医療が変わっ

て行く可能性を秘めております。

医療過誤、カルテの開示、情報の開示等多くの変革が起きつつあり、パラダイムシフトが今まで以上に起こってくる時代と考えられます。当院に於いて

も、時代の流れ、新しい考え方に即した、医療を行って行きたいと考えていますので、皆様方の忌憚らないご意見を伺えれば有り難いと思っております。

「食欲」のおはなし

管理栄養士 橋田 真美子

食欲のおはなし

◎ なぜ食欲が湧くの？

それは生きていくのに必要な栄養分をからだに補給するためです。食後約3時間で脳内の糖分が減少し、4～6時間経つと胃が空腹になり、食欲が湧いてきます。これは生きるための本能によるものですが、それとは別に、おいしそうな食べ物を見たり、いい匂いがしてくると満腹でも食欲が湧いてきます。これは、動物には見られない人間特有の食欲のようです。

◎ 満腹感と空腹感

「お腹がすいて何か食べたい」と感じる摂食中枢と、「お腹いっぱい」と感じる満腹中枢は、大脳の視床下部というところにあり食欲をコントロールしています。食べ物が胃の中に入って消化吸収されると、血液中のブドウ糖の濃度が上がります。すると、満腹中枢が刺激されて「満腹」と感じ、摂食中枢の活動が抑制されて食べることをやめる指令が出されます。食事をしてから時間が経つと、血糖はエネルギーに変えられ在庫が少なくなり、その不足分を補うために脂肪が分解され脂肪酸に変わって、これが摂食中枢を刺激して「食べたい」と感じます。満腹・空腹は脳で感じているのです。

◎ 食欲をコントロールするには…

満腹中枢が刺激されて「満腹」と感じるまでに、食事を始めてから約20分かかります。早食いの人は食欲にブレーキがかかる前に食べ過ぎてしまいがちです。このような状態が続くと、空腹・満腹に鈍感になり、食欲をコントロールできず、空腹でなくても食べてしまうという状態になることもあります。このような乱れた食欲をリセットするには、前の食事から4～6時間あけ、空腹感をしっかり感じてから食事をすることが大切です。また、食べ過ぎを防ぐために、①食事をする前にお水やお茶でお腹を落ち着かせる ②野菜や海藻・こんにゃくなど満腹感の得やすい繊維質の物から食べ始める ③ゆっくりよく噛んで食事をするなどを心がけると良いでしょう。

◎ 食欲の秋です!!

秋はとにかく食べ物がおいしい季節です。秋に食欲が出てくるのは、食べ物が少なくなる冬を乗り切るため、からだが栄養を蓄えておこうとする動物の本能と言われています。また、夏の間に減少していた食欲が戻ってきて、ついつい食べ過ぎてしまいがちです。本能や欲求に任せてばかりでなく、食欲を上手にコントロールしましょう。

患者さんからの便り

「私の病院」

和田 依子

痛みを伴う病気には誰しもかかりたくないのですが、その痛みの様相にも千差万別ありで、血と汗と涙を流して耐えに耐える拷問のような痛み。こらえられないこともないが、四六時中居座られ、

まるで先の見えないような鈍痛。間欠泉のように一定の間をおいて確かに襲ってくる激痛・・・。

いずれも経験済みではありますが、最近なやまされたのは腰痛。この痛みは心がしらけ、やりき

れない思いになるのです。無造作に立ち上がると
アイタタッ。なのに気をつけてじこじこ立ち上
ってもイタッ。かといって忘れたように何も感じ
なくなると、なんとなくはぐらかされたような思
いになるのです。

重い気持を抱えて一日延ばしにしてもおられず
やおら病院へ。そこで私のカルテのある病院は・・・
岡村病院。しばらく遠のいていても来て見れば昨
日のよう。前を車で通るたびに感じる「私の・・・」
という思いは、来てみてやっぱりと言うことになり、
ホッとするので。

谷先生の診察によってレントゲン撮影、骨密度
の検査と進められ、そして診断。すでに五年前の

データが並べられ、進行状態が一目瞭然。顕著な
後退はみられないということで胸なでおろす。確
かに私の病状が責任を持って見定められていると
いう安心感と信頼感で満たされるのです。こうし
て治していただけたと思うと、この痛みさえい
とおくなるのです。・・・あれだけしらけたとい
うのに。

塗り薬も飲み薬もよく効いて、数日で軽くなり
ました。他の科にもお世話になっているというこ
ともあり、「私の病院」の感を一層強くし、いつ
からの御縁であったろうかと思ひ返しています。
今では腰の痛みからもすっかり開放され、感謝の
思いひとしおです。



「就職して1年・・・」

医事課 永吉健士

今年9月1日をもって岡村病院に就職して1年
が経過しました。正社員としての就職歴が全くな
かった僕にとって、この1年はあっという間の1
年でした。

大学を中退した当初は、とにかくバイトなどで
生活していくつもりでしたが「何か資格をとれ」
という親の忠告に従う形で、専門学校に入るこ
とになりました。そこで医療事務に出会い、理由は
わからないのですが「こういう仕事についてもい
いかな」という気持ちが生まれてきました。多分、
自分の中でかなり面白かったのだと思います。そ
の後は卒業単位となる資格も順調にとることができ、
昨年8月、病院実習が始まる前に岡村病院の面接
試験を受けることになりました。まさか本当に合
格するとは思っていなかったのですが、なんとか
就職も決まり、昨年9月に入社しました。

学校でもそこそこの成績を残していたので、「何
とでもなるかな」という甘い考えを持っていました。
しかし現実には厳しいものでした。学校で学んだこ
とは基礎中の基礎で、はるかに高度なレベルで着々
と仕事をこなす先輩達をみて「ついていけるかな」
という不安ばかりの毎日が続きました。慣れない
仕事で必要以上に疲労が蓄積し、体調を崩して休
むこともありましたが、しかし病院スタッフの皆さん
のおかげで、ここまでやってこれました。

僕の中から見て、医事課の素晴らしいところは、
失敗を恐れずにいろいろな事にトライできるこ
ろではないかと思っています。

自分がした失敗について、ただ頭ごなしに怒ら
れたとしたら・・・その人は失敗を恐れて何も出
来なくなるかもしれません。しかし周りがちゃんと
フォローしてくれたら、失敗を恐れずに次にト
ライすることが出来ます。僕も入社当時はなんでも
ないことでミスもしました。しかし周りの人たちが
僕のフォローをしてくれました。そして次に
ミスをしないためにはどうしたらいいか、みんな
で考えてくれました。勿論怒られもしましたが、
それは全然苦になりませんでした。現在は入院事
務担当ですが、一人前とはいかないまでも、なん
とかこなせるようになりました。これもひとえに
医事課のみんなのおかげだと感謝しています。

僕は、岡村病院に就職することが出来て良かつ
と思います。

やっと2年目に突入したばかりですので、これ
からも勉強しなければならないことや、成長しな
ければならない部分は多々あると思います。しかし、
失敗を恐れることなく（しかしミスはしないように）
充実した日々を過ごせるよう、努力していこうと
思います。

「アジア名」

臨床検査技師 仙頭知恵

台風は、身近で頻りに発生している自然現象で大きさや強さ、進路によっては日常を変えざるを得なくなる怖いものです。そこで発生するとそれらの情報を盛んに知らせることで人々の注意を促し防災意識を高めています。

しかし、私自身、日常が変わる程の被害を受けずに過ごしたからか、重要とは思えないアジア名に興味を持ちました。

アジア名とは、2000年1月から日本周辺で発生した台風につけられる名前の中で、ESCAP/WMO 台風委員会が決定しているそうです。これは1968年設立の政府間組織で、様々な分野の協力を通じて台風による災害を軽減することを目的とし、米国とアジアの11の国と2地域で構

成された委員会です。名の通った学者が持ち寄った有意義な名前なのだろうと想像しましたが、各国の呼び名をカタカナ表示しているので、バピンカ、パーマァ、オーマイス、ラナニム等、全く意味がわかりません。きっとその方が良いのだとそれらの言葉の意味を知ったとき、実感しました。順番に、プリン、マカオ料理の名前、徘徊、こんにちは・・・。思わず冗談かと失笑し、災害は軽減できるのかしら？と、疑問を持つと共に、呑気に暮らしている私のような人も世間には沢山いるのだと、微笑ましくも思いました。

いざ、災害に遭うことがあっても、心のどこかにこの「呑気」を持っていれば、前向きに乗り越えられる気がします。

「よさこい祭りがやってきた！」

「土佐の高知のはりまや橋で、坊さんかんざし買うを見た・・・」高知の夏を彩るよさこい祭りが、去る8月9日～12日に、市内各地の各演舞場にて行われました。それに伴い、岡村病院正面玄関前の歩行者用道路にて今年も踊り子隊「サボタージュ by パトス」の皆さんに踊りを披露していただきました。

車椅子などで玄関前に集合した入院患者の皆様は、手をたたいたり、顔をほころせながら若いエネルギーに声援を送り、職員ともに、華やかな夏の風物詩を楽しみました。



「タイ舞踊」

「サワディーカー（こんにちは）バンコク！」

去る9月19日～22日、10月10日～13日、岡村病院の職員総勢約30名が、微笑みの国、天使の楽園とも言われるタイ、バンコクへ旅行に行ってきました。世界遺産アユタヤや、きらびやかな王宮をはじめとした壮大な景色はもちろんのこと、美味しいタイ料理や、タイ舞踊、エステなど満喫した旅行になりました。…さて、リフレッシュも完了したところで、また毎日ガンバルゾ！

● ニューフェイス ●



山崎千賀さん
看護師
趣味：ガーデニング



広地智也さん
事務長補佐
趣味：楽器（ホルン）・ゴルフ



前野敦子さん
准看護師
趣味：ビデオ鑑賞



野島恵さん
医事課
趣味：バレーボール



坂本和代さん
准看護師
趣味：カラオケ



渡邊咲季さん
医事課
趣味：バスケットボール



滝本愛子さん
准看護師
趣味：ガーデニング

よろしく
お願いします。



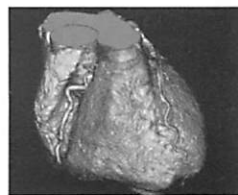
最新鋭CT導入

本年12月15日より西日本では最新のCTが本院で稼働いたします。

ご承知の如くCT検査は頭・胸部・腹部・骨盤腔・下肢など全身のコンピューター画像診断法です。今回設置されたCTはマルチスライスCTと呼ばれるCTであります。以前のCTは身体の回りをビーム状にX線を出して1回転ごとに1つの画像を作っていましたが、今回のCTは検出器が40列あり、X線管が1回転で40の画像を作ります。この為に非常に速く検査が終了し、胸部のCTで10秒以内に胸から足の先まで全てを検査して30秒程度で検査が終了します。

非常に多くの情報を一挙に得ることが出来るために、以前は輪切り（断面）のみの画像であったのが、三次元画像や、任意の方向の画像も得られます。更に心臓の血管も撮影可能となり、カテーテル検査をしなくてもある程度心臓の血管の評価が可能となりました。

今後、診断、治療に於いておおいに威力を発揮すると思っておりますので、ご期待下さい。



「心臓の血管」



「腹部から足にかけての血管」

年末年始の診療

- ※ 12月30日
午前中のみ診療します
- ※ 12月30日午後から1月3日
年末年始のため診療はお休みします
- ※ 1月4日
通常どおり診療します

インフルエンザの予防接種をはじめました

体調管理の難しい季節となりました。当院ではインフルエンザの予防接種を行っています。

実施期間：平成16年10月1日～平成17年2月28日

自己負担金：高知県内に住民登録を有し、本人が接種を希望する方で、

65歳以上の方	1,000円
60歳以上65歳未満で身体障害者手帳1級相当の方	
上記以外の方	2,500円

※ 2回目の接種は1,500円となります。

保険証を持参の上、当院受付までお申し込みください。